子育て中のお母さん・お父さんにエール こんのひとみさんの子育て講演会

絵本作家・こんのひとみさんを講師に迎えた「内子町子育て講習会」は11月26日、内子座で開かれました。こんのさんは、自身の作品の誕生秘話などを披露。『かあさんのこもりうた』が、東日本大震災で母を亡くした女の子に、天国の母から手紙が届くという、奇跡の実話から生まれたことなどを話しました。参加者は「家族の深い愛情が心に響いた」と目に涙を浮かべていました。

こんのさんの歌や朗読も楽しめた講演会

広がる。えひめＡＩ－１の活用法 エコロジータウンの「内子発環境会議」

「第13回内子発環境会議」（同実行委員会主催、入江英昭実行委員長）が11月27日、町民会館で開かれました。

会議では、えひめＡＩ－１が家庭排水をきれいにする仕組みや、農業で利用した実践報告がされたほか、環境ＮＰＯサン・ラブがえひめＡＩ－１を使って作った竹堆肥も配られました。参加者は「取り組みが盛んになっていることを実感した。竹堆肥も実践したい」と話しました。

えひめＡＩ－１の活用をテーマに開かれた環境会議

思い出の榎と小田川を大切にしよう 恒例の「大きな榎の木の下で」を開催

五十崎地域の有志が主催する「大きな榎の木の下で」は12月3日、小田川緑地公園などで行われました。

「子どもたちの自然を大切にする気持ちを育てる」をテーマに始まった同イベントは、25回目を迎える恒例行事です。今年は親子連れなど150人が参加し、内子町指定の天然記念物の榎の周辺を清掃した後、共生館ホールで和太鼓演奏や紙芝居などを楽しみました。

子どもたちが楽しみにしている大きな榎のケーキ

和紙の素朴さと風合いが来場者を魅了 内子町内の作家たちの「和紙創作展」

手漉き和紙の魅力を伝える「和紙創作展」（界隈づくり委員会主催、大森陸雄会長）が12月10・11の両日、天神産紙工場で開かれました。和紙を使ったインテリアや小物などが並び、素朴で柔らかな魅力で来場者を引き付けていました。大森会長は「リピーターが増え、作家たちはやりがいを感じながら、創作活動を続けている。もっと和紙の魅力を引き出し、伝えていきたい」と力を込めました。

折り紙の魅力を来場者に伝える岡野千鶴さん（右）

内子町最大のサイクリングイベント 「第４回小田川シクロクロスin内子」

1_自転車を持って階段を駆け上がる選手たち
2_レディースクラスで入賞した皆さん

冬の小田川を熱くする「小田川シクロクロスin内子」が12月11日、五十崎豊秋河原で開かれました。

シクロクロスはオフロードで行う自転車競技で、一定時間内にコースを何周できるかを競います。内子大会のコースは1周約1.5キロ。河原の砂利道や階段、人工の障害物が設けられます。レースは年齢や性別、熟達度別の7部門とチームで参加する90分耐久レースが行われました。

開会式では稲本隆壽（たかとし）町長が、「年々参加者が増えて、感謝の気持ちでいっぱい。レースの結果も大切ですが、過酷なレースの後は内子町を楽しんで、仲間との友情を深めてほしい」と選手を激励。ジュニアクラスとレディースクラスのレースを皮切りに、愛媛県内外から参加した255人が熱い戦いを繰り広げました。

表彰式で入賞者に贈られるのは、内子町産のキャベツ。各部門で入賞した選手は、驚きながらも大きなキャベツを掲げて喜びを表現していました。

山間部のまちで楽しむ海の幸 商店街で１日限りの「牡蠣（かき）小屋」開店

愛媛県産の旬の真牡蠣がいっぱい

山間部の内子町でも旬の牡蠣を楽しもうと「1日限りの牡蠣小屋」（内子まちづくり商店街協同組合、大西啓介（けいすけ）代表理事）が12月18日、内子まちの駅Nanze（ナンゼ）で開かれました。大西理事長は「商店街の年末感謝祭をかねて、２回目の開催。内子には舌が肥えた人が多いので、おいしい牡蠣をそろえた」と話します。約100人が参加し、炭火で焼いた熱々の牡蠣に舌鼓を打っていました。

新年をみんなの手作り門松で迎えよう 内の子ふれあい会の「門松づくり」

南天や杉葉を見栄え良く飾り付ける

世代間交流を目的とした「門松づくり」が12月23日、内子自治センターで開かれました。日本の文化を受け継ぐ貴重な機会に、地域住民や小・中・高校生など約100人が参加。子どもたちは地域の人に道具の使い方や飾り付けを教わりながら、約1時間の作業で立派な門松を作りました。内子小4年の青木楓花（ふうか）さんは「毎年参加しています。上手にできて良かった」と笑顔で話しました。